

# 効率的なアクセス業務の実務検討に関する作業会の 設置について

平成 30年 4月 25日  
効率的なアクセス業務の実務検討に関する作業会 事務局

電力広域的運営推進機関

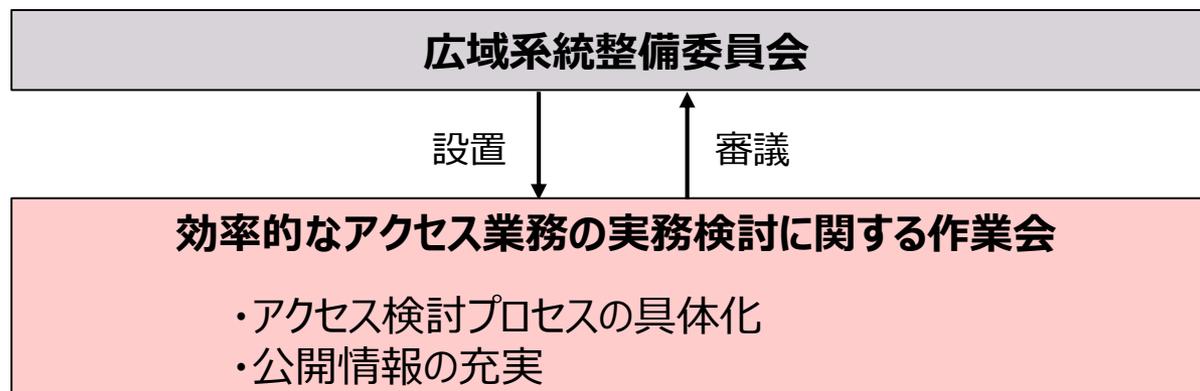
- 本機関が平成29年3月に策定した「広域系統長期方針」において、電力自由化の進展やFIT制度の導入に伴い、電力系統への新たな電源連系ニーズが急速に拡大している一方、電力需要は拡大しないことが見通されることから、これまで以上に流通設備を効率的に活用し、電力系統利用の円滑化・低廉化を目指すこととした。
- その実現に向けては、系統の空容量や流通設備費用を考慮せずに電源が偏在して計画された場合、これに単純に追従して系統整備を進めると非効率な設備形成となる可能性があることから、空容量を考慮して既存の流通設備を有効に活用していくなど電源側と流通側の総合的なコスト最小化も重要であることを確認し、取り組みの具体化については、広域系統整備委員会（以下、「委員会」）で実施することとして、平成29年6月から議論を開始した。
- 委員会での議論やアンケート（\*）の結果等を踏まえて、現行アクセスルールの課題や公開情報の課題・利用状況・ニーズ等を整理するとともに、課題等への対応として「アクセス検討プロセスの導入」と「費用対効果を考慮した公開情報の充実」の方向性を平成30年1月に示した。
- さらに、今後は、実際の具体的な業務の進め方や規程類の見直し、情報の公開に向けての具体的な検討等を進めていくことから、より実務的な観点で詳細を検討していく必要があるため、作業会を設置し、その中で整理していくこととした。
- なお、国の「再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会」でも、情報の公開やアクセス業務の改善に関して、議論がなされている状況である。

（\*）平成29年10月には、電源の偏在緩和に向けた公開情報の充実に対するニーズや、現行のアクセスルールの課題に対応するためのスキームの見直しに対する意見を広く調査するため、系統連系希望者・一般送配電事業者にアンケートを実施した。

## 2. 検討体制について

- 検討スキーム、公開情報の充実に関しては、**実際の具体的な業務の進め方や規程類の見直し、情報の公開に向けての具体的な検討等を進めていくこととなることから、より実務的な観点で詳細を検討していく必要がある。**
- このため、本機関及びアクセス業務に直接携わる事業者において詳細検討を行う作業会、**「効率的なアクセス業務の実務検討に関する作業会」（以下、「作業会」という。）を設置し、その中で実務を踏まえて整理していく。**
- **検討料金の設定や容量確保に伴うデポジットの設定なども含めアクセスルールを全体的に見直すことから、広域機関ルールや各一般送配電事業者の託送供給等約款などについても整理していくことになるため、必要に応じて国とも連携していく。**

### <検討体制>



### <作業会メンバー>

- ✓ 広域機関（事務局）
- ✓ アクセス業務に直接携わる事業者

- 作業会では、主に**以下に示すような事項について整理を行っていく。**
- 作業会で整理した事項については、**広域系統整備委員会で適宜ご審議・ご確認頂く。**
- なお、作業会は非公開で行うものの、**議事等は公開（機微なものは非公開）し、関係する事業者へ検討の状況を共有する。**

整理事項(案)	
アクセス検討プロセスの具体化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討方法整理 (検討期間、検討内容、検討料ほか)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な業務フロー整理</li> <li>・関係様式整理 ほか</li> </ul>
公開情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用対効果等の確認・検証を踏まえた空容量マップの改善整理</li> <li>・申込み案件及び検討状況(PJMと同様)の情報の公開整理</li> <li>・アクセス検討プロセスにおける検討状況等情報の公開整理</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記で整理した情報の公開に必要なシステム対応に向けたスケジュール整理</li> </ul>

# 4. スケジュール(案)

		2018年度				2019年度				2020年度
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	
広域系統整備委員会		半期に1回程度 審議								実施
作業会	アクセス検討プロセスの具体化	・検討方法整理(検討期間、検討内容、検討料ほか)		・全体的な業務フロー整理 ・関係様式整理 ほか						
	公開情報の充実	・空容量マップの改善整理 ・PJMと同等の情報の公開整理 ・検討状況等情報の公開整理		・システム対応に向けたスケジュール整理						
規定類見直し (広域機関ルール、託送供給等約款)				関係箇所調整 / パブコメ / 文案作成・修正				実施に向けた準備		
事業者周知						説明会、HP周知 など (広域、一送 それぞれ)				

( 参考資料 )

## 現行の検討スキーム・検討方法 (個別の検討ステップにおける課題整理)

- 現行ルールにおいて顕在化しつつある課題を、アンケートの結果も踏まえて、現行の検討ステップと共に整理すると以下のとおり。

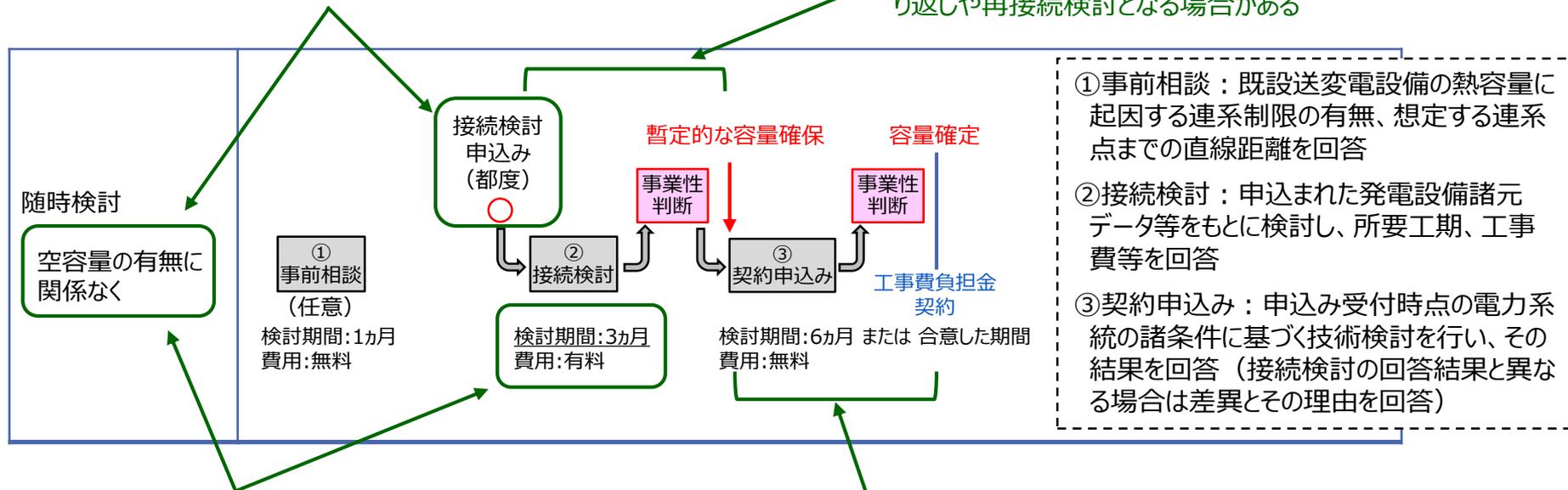
時系列

### 課題① 非効率な設備形成となり、事業者・需要家の負担が増加

- 申込みの都度、対策を検討するため、上位系統対策が必要な系統等では継ぎ接ぎの系統計画となり、非効率な設備形成となることで、事業者や需要家の負担が増加する場合がある

### 課題②- I 接続検討の繰り返し

- 空容量の少ない系統や、連系希望が多い系統では、接続検討開始から暫定的な容量確保までに、他事業者が契約申込みを行うことで、接続検討の前提条件が変更となり、検討の繰り返しや再接続検討となる場合がある



### 課題②- II 事業性に見合わないと考えられる接続検討

- 上位系統対策が必要な場合など、連系に必要な工事費が高額となる場合や工期も長くなり、さらに検討項目も多岐に亘るため検討期間が長期化することがある

### 課題④ 容量の空押さえ (アンケート結果より抽出 P43参照)

- 契約申込み後、長期にわたって契約締結に至らずに系統容量を暫定的に確保し続ける場合、設備の有効利用を妨げ、空容量を圧迫し連系に必要な対策を過大にする可能性がある。また、それらの契約申し込みが取り下げされると検討の繰り返しにも影響を与える場合がある

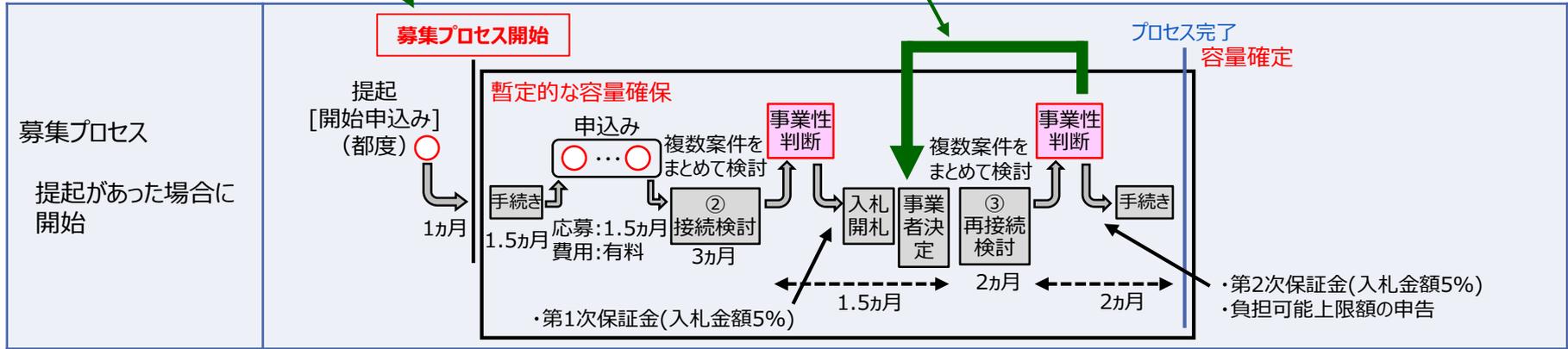
現行の検討スキーム・検討方法 (募集プロセスの検討ステップにおける課題整理)

課題① 非効率な設備形成となり、事業者・需要家の負担が増加

- 募集プロセスの開始判断が難しい

課題③ 意思確認時等の辞退による手戻り

- 意思確認(事業性判断)時等プロセスの途中段階で、辞退等が発生した場合、再度、事業者選定のステップに戻ることから、プロセス全体が遅延し、それが連鎖すると参加する他の事業者に対し影響を与える場合がある。



## [参考] 公開情報に対する課題

- 本機関が策定した長期方針に記載のとおり、**電源連系希望者に対し、空容量のある系統への連系を促進するためにも、公開情報の充実や積極的な情報発信に取り組むことが重要である。**

そのためには、電源連系希望者に対し、各一般送配電事業者が公開している系統状況に関する情報を適切に伝え、空容量のある系統への連系を促進することが有効と考えられるため、公開情報の充実や積極的な情報発信に取り組んでいくことが重要である。

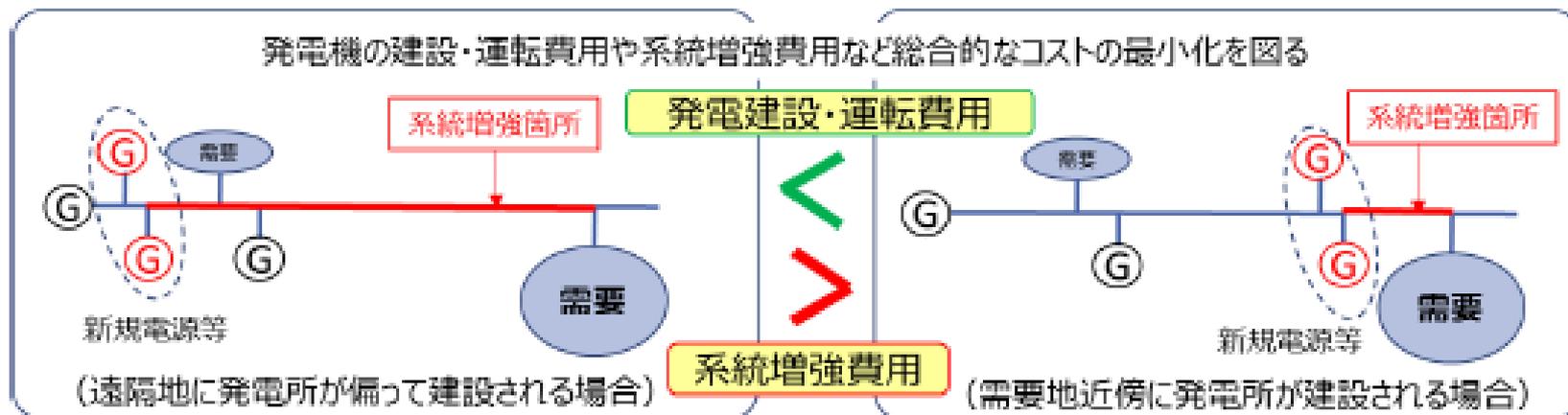


図 22 総合コスト最小化のイメージ

長期方針(2017年3月策定)より抜粋

## 2. 方向性の整理について

### (2) 公開情報の充実

#### ① 空容量マップの改善要望への対応

- 一般送配電事業者に対応可否などを確認中であり、引き続き検討を進める。
- その検討にあたり、**系統連系希望者のニーズをより具体的に確認した上で、対応について検討したいと一般送配電事業者からのニーズも確認したことから、作業会で詳細を確認し効果を検証したい。**

	主な改善要望
1 情報の更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事業者の申請取り下げを早く空容量に反映して欲しい</li> <li>• 空容量マップでは空きがあったものの、接続検討申込み時に空きがないと言われた</li> </ul>
2 情報の追加	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 近接の送電線・変電所までの距離を確認し、複数の連系パターンを検討するため、鉄塔の位置等の情報が欲しい</li> <li>• 募集プロセスでどこに連系すれば良いかを見極めたいため、上位系統制約で空容量がゼロとなる系統において、仮に上位系統制約がない場合の空容量の情報が欲しい</li> <li>• 空容量ゼロの系統においては、その理由を明示して欲しい</li> <li>• 系統のネック個所が分かるようにして欲しい</li> <li>• 同じ系統でも連系点によって空きの状況が変わるので、そのような情報も開示して欲しい</li> </ul>
3 将来の予見性確保に関する情報の追加	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現状の契約申込み済みを含む空容量マップに加えて、予見性向上のために工事費負担金支払いが完了した計画の情報も公開して欲しい</li> <li>• 空容量ゼロの場合、既連系済み案件でゼロなのか、連系予定案件も含むのか。予定案件を含むのであれば、それらの系統連系時期はいつか、それらが連系しない可能性があるのか等の情報が欲しい</li> <li>• 空容量ゼロの場合、接続検討申込数や契約申込数、申込容量の情報を反映して欲しい</li> <li>• 空容量ゼロの場合、将来空く可能性があるのかなど予定も入れて欲しい</li> <li>• 実潮流での空容量を開示して欲しい</li> </ul>
4 使い方、利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 具体的な地名で探そうとすると特定しにくい場合がある。レイヤー機能がついていると分かりやすい</li> <li>• 送電線名、変電所名が電力会社によっては、記載していないので統一し記載して欲しい</li> <li>• 電力会社ごとに情報開示の仕方や使い方が大きく異なるのは改善して欲しい</li> </ul>

第29回広域系統整備委員会資料P23

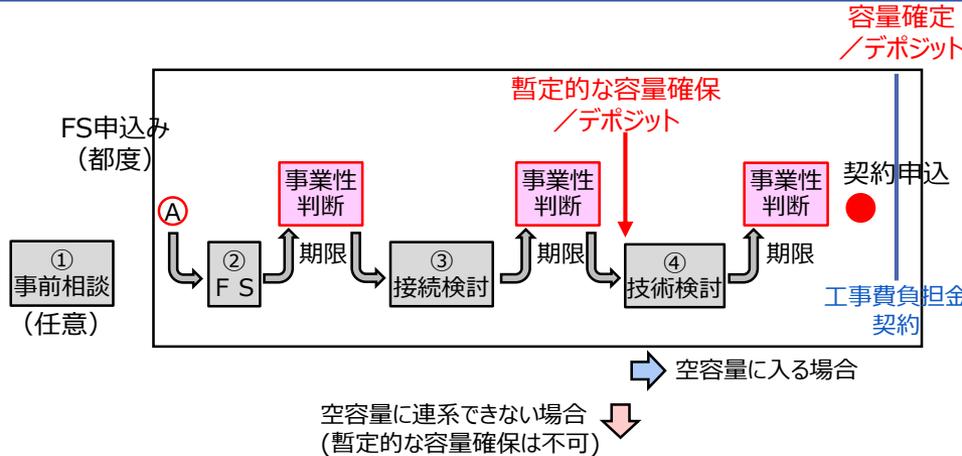
- 課題の解決に向けて、**今回のアンケート結果等(後述)や海外文献調査を参考に考えられる検討スキーム・検討方法のイメージは以下のとおりであり、詳細は今後検討していきたい。**
- さらに、業務規程や各社の託送供給等約款などのルールへの影響も考えられるので、必要に応じて関係箇所との協議も実施していく。

## アクセス検討プロセス

時系列

### 個別検討

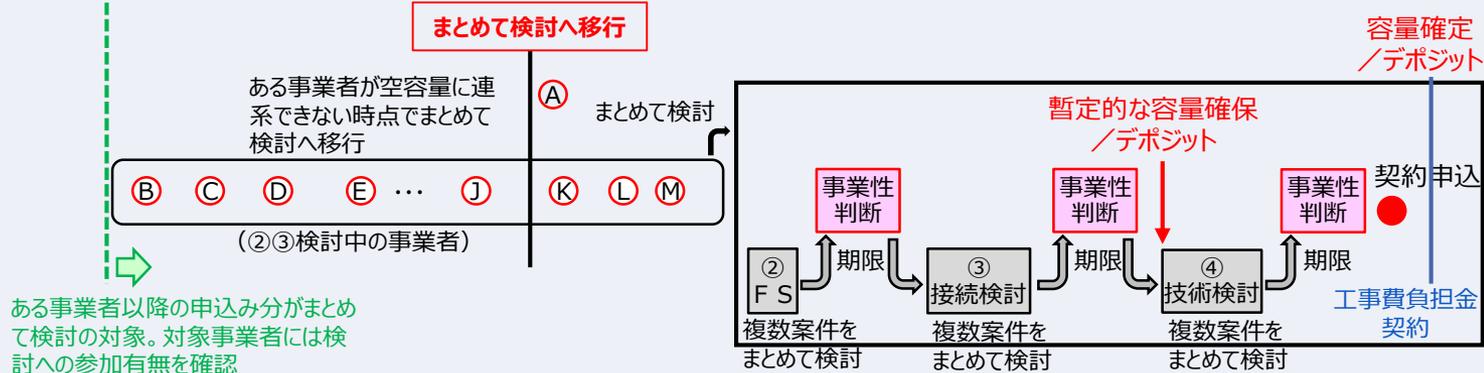
<空容量あり>  
随時検討  
(個別検討)  
※系統対策なし



- ①事前相談：現状同様
- ②FS：既設送変電設備の熱容量に起因する連系制限の有無、標準的単価相当のオーダー感の分かる程度の工事費を回答
- ③接続検討：現状同様
- ④技術検討：現状、契約申込み後に実施している技術検討を実施

### 一括検討

<空容量なし>  
<空容量なくなる>  
まとめて検討  
※系統対策あり



ある事業者以降の申込み分がまとめて検討の対象。対象事業者には検討への参加有無を確認